

# 《醒世姻縁伝》における動詞分類とその問題点について

木村 裕章

東亜大学 人間科学部 国際交流学科  
kimura@toua-u.ac.jp

## <要 旨>

筆者は木村 2004,2010 において、現代中国語の動詞を自動詞と他動詞に分ける作業を行い、他動詞をその他動性に基づき7つに分類した。本研究ノートでは、近世中国語の動詞について同様の分類を行うための準備として、いくつかの動詞の分類を行い、動詞分類の問題点について若干の検討を行う。

具体的には、明末清初の小説である《醒世姻縁伝》にある会話文の中から動詞を抜き出し、自動詞であるか他動詞であるかの判断を行う。他動詞である判断としては動詞の後に目的語を伴うかどうかであるが、中国語の目的語には様々な意味役割があり、その意味役割によって自動詞であるか他動詞であるかの判断ができる。また、目的語が動詞に前置される場合は、その他動性がより高いと考えられる。

キーワード：自動詞，他動詞，動詞の分類，目的語

## <目 次>

1. はじめに
2. 現代中国語の自動詞と他動詞
  - 2.1 形式による分類
  - 2.2 意味による分類
3. 《醒世姻縁伝》の分析
  - 3.1 会話文中における動詞例
  - 3.2 動詞の分類
  - 3.3 動詞分類の問題点
4. おわりに

## 1. はじめに

中国語の動詞には格変化や主語・目的語の意味役割を明示する助詞がないために、自動詞であるか他動詞であるかを明確に判断することが難しい。一般に、自動詞と他動詞を分ける有力な基準は、その後に目的語をとれるかどうかということである。

- (1) 父亲打了一些野果。〈父は野生の果実をいくつか取った〉
- (2) 歹徒杀害了这位进步人士。〈悪者がこの進歩的な知名人を殺害した〉
- (3) 妻子正在看电视。〈妻はちょうどテレビを見ているところだ〉
- (4) 他理解了这个意思。〈彼はこの意味を理解した〉
- (5) 爱人丢了一个钱包。〈夫(妻)が財布を失くした〉
- (6) 老人听见雷声了。〈老人は雷の音が聞こえた〉
- (7) 家里来了几个客人。〈家に客が数人やって来た〉
- (8) 那些地方发生了一起抢劫案。〈それらの場所で強奪事件が起こった〉
- (9) 我飞了一趟广州。〈私は広州へ飛行機で一往復した〉
- (10) 母亲一直在操心儿子的婚事。〈母親は息子の結婚の事をずっと心配している〉

『現代汉语动词大词典』では、これらの例文のうち、(1)の“打”、(2)の“杀害”、(3)の“看”、(4)の“理解”、(5)の“丢”、(6)の“听见”は他動詞とされており、動詞の後の目的語はすべて動作の対象となっている。これに対し、(7)の“来”、(8)の“发生”、(9)の“飞”、(10)の“操心”は自動詞とされており、(7)、(8)の目的語は動作主を、(9)の目的語は場所を、(10)の目的語は原因を表している。

中国語の動詞が自動詞であるか他動詞であるかをどのように区別するかについては様々な見解があり、曖昧な点も多く存在する。しかし、自動詞と他動詞を明確に分類することは文法構造を理解するためにも重要であると考えられる。ここでは、現代語での両者の分類を参考にし、近世語における動詞の分類とその問題点について考察を行う。

## 2. 現代中国語の自動詞と他動詞

現代中国語の動詞の下位分類としては、自動詞と他動詞に分けることができる。一般に中国語の動詞は英語のように、その後に目的語をとれない動詞を自動詞、目的語をとれる動詞を他動詞とする考え方がある。中国語の場合は動詞の後に様々な目的語がくるが、自動詞であっても目的語を伴う場合や他動詞であってもその目的語が動詞に前置する場合もあり、英語のように単純に考えることはできない。

中国語の自動詞と他動詞を分類するには、何を基準にするかによって異なってくる。主な基準としては、形式的なものと意味的なものが考えられる。

### 2.1 形式による分類

動詞の後に目的語をとるかどうかという形式的な違いを判断基準とすると、後に目的語をとれる動詞を他動詞、とれない動詞を自動詞と分類することができる。

例えば、中国語の動詞の中で、目的語が関与する余地がなく、項を一つしかとれない（つまり、動詞の前に動作主しかない）“一价动词”（一価動詞）はすべて自動詞と考えることができる。しかし、自動詞であっても、次のように動作主を目的語にすることができる。

- (11)a. 水开了。  
b. 这炉子真旺，半个小时就开了两壶水。
- (12)a. 他在前排坐着。  
b. 前排坐着几个人。
- (13)a. 这种动物生存在水中。  
b. 海洋中生存着许多不知名的生物。

例文(11)b、(12)b、(13)bの“两壶水”、“几个人”、“许多不知名的生物”は、それぞれ動詞の後に来て目的語となっているが、“一价动词”はあくまでも自動詞であり、形式的に後に目的語をとる場合でも他動詞とすることはできない。

また、中国語の2音節の動詞の中で、その内部構造が「動詞+目的語」である“离合词”は一般的に目的語をとることができないので、自動詞に分類することができる。

- (14)a. 老王也和我们见面了。  
b. \*老王也见面了我们。

(15)a. 他最后还是跟一个老同学结婚了。

b.\*他最后还是结婚了一个老同学。

例文(14)a、(15)a の介詞で前置された成分である“我們”、“一个老同学”をそれぞれbのように動詞の後に持ってくることはできない。

## 2.2 意味による分類

動詞が他の事物（目的語）に何らかの影響を及ぼすかどうか（つまり動詞の持つ「他動性」）に基づき、影響を及ぼすものを他動詞、影響を及ぼさないものを自動詞と分類することができる。現代中国語における自動詞と他動詞の分類はこの意味的な分類による部分が大きく、中国語の自動詞が“不及物动词”，他動詞が“及物动词”と呼ばれる所以でもある。

また、影響を及ぼす強弱（他動性の強弱）によって他動詞をさらに以下のようないくつかのカテゴリーに分類することができる。（これらの分類については木村 2004 において詳細に行った）

①主体の動作・作用が直接的に及ぶもの

A. 目的語が外的変化を伴うもの

B. 目的語が内的変化を伴うもの

C. 目的語自体は変化を伴わないもの

②精神的働きかけの対象となるもの

③動作・作用の結果、作り出されるもの

④使用・操作する対象としての道具であるもの

⑤主体の演じる役割であるもの

⑥動作・行為の向かう場所であるもの

⑦動作・行為の向かう方向であるもの

そして、これらの他動詞の持つ他動性の強弱には次のような関係がある。

<強> ← **他動性** → <弱>

①A>①B>③>①C>②>④⑤⑥⑦>自動詞

## 3. 《醒世姻縁伝》の分析

近世中国語の動詞例として、ここでは《醒世姻縁伝》に登場する動詞について検討を行う。《醒世姻縁伝》（全百回）は明末清初に西周生によって書かれたものとされている<sup>1)</sup>。使用する方言語彙などから山東省の人間であると考えられるが、北京の街を小説の舞台としており、特に会話文の中に当時の北京の言葉が残されていると考えられる。

## 3.1 会話文中における動詞例

ここでは、「会話文」のみ（地の文を除く）に登場する動詞について、その手始めとして《第一回》、《第二回》についてのみ検討を行う。

なお、文中の太字は動詞を表し、さらに文の下にそれらを抜き出して記載している。動詞の前後の< >内の語は目的語を表し、( )は動詞に付随する成分を表している。（動作主については記載していない）また、主題として前置された成分には下線を施している。

《第一回》

1) 你雖然不中，如今年紀不甚大，你這儀表斷不是個老教授終身的。

中：（試験に）合格する

2) 你如今不要廷試，坐了監，科他一遍科舉，中了更好，即不中，考選有司，也定然不在人下。況我也還有幾年在京，可以照管著你。

廷試：旧時、科挙制度における第三段の試験で、天子が保和殿でみずから“策問”を試みたことをいう

坐(了)監：国子監に入って学ぶ

科(他)<一遍科舉>

中(了)

(不)中

考選：試験で選抜する

(不)在<人下>

在<京>

照管(著)<你>：世話をする

3) 老師望我中舉，舉既不得中，若不趁他在京，急急考就了官，萬一待他去了，沒了靠山，考一個州縣佐貳，讀書一場，叫人老爺，磕頭參見，這也就苦死人了。

望<我中舉>

中舉：科挙試験の郷試に合格する

<舉>(不得)中

在<京>

考

就(了)官

待<他去>

去

沒(了)<靠山>

考<一個州縣佐貳>

讀書(一場)  
叫<人><老爺>  
磕頭  
參見  
苦死<人>

4) 我雖是**考中**了知縣，**缺**的美惡就**如**天上地下一般，何不趁老師在**京**，急急**尋**個好地方**選**了。又**待**何時。

考中<知縣>  
缺(的)<美惡>  
如<天上地下>  
在<京>  
尋<個好地方>  
選  
待<何時>

5) 這個**華亭縣**，自古來都是進士**盤踞**住的，那有歲貢得的。

<這個華亭縣>盤踞(住): 不法に占拠する  
有<歲貢>  
得(的)

6) 如宅上**用**錢時，不拘多少，**發帖**來小桌**支取**。等頭比別家不敢重，錢數比別家每兩多二十文。**使**下低錢，任憑**揀換**。

用<錢>  
發帖:(招待状・書きつけ・ビラなどを)出す  
來  
支取:(金を)受け取る, 引き出す  
使下<低錢>  
揀換: 両替する

7) 晁爺新**選**了官，只怕一時銀不**湊手**。

選(了)官: 官吏を選考する  
<銀>(不)湊手:(金錢を)工面する

8) 我家有銀二百。

有<銀二百>

9) 我家有三百，只管**取用**。**利錢**任憑**賜下**。如**使**的日子不多，連利錢也不敢**領**。

有<三百>  
取用: 取って使う。  
<利錢>(任憑)賜下: お届けくださる  
使(的)<日子>  
“連”<利錢>(也不敢)領

10) 這等一個貧相，怎**當起**這等大家。

當起<這等大家>: 見合う

11) 我這一班戲通共也**使**了三千兩本錢，今才**教成**

還未**撰**得幾百兩銀子回來。若去了正旦，就**如**去了**全班**一樣了，到不如**全班**與了晁大爺，憑晁大爺**賞賜**罷了。

使(了)<三千兩本錢>  
教成: 仕込む  
撰(得)<幾百兩銀子>(回來)  
如<去了全班>  
去(了)<正旦>  
去(了)<全班>  
(不)如<全班與了晁大爺>  
與了<晁大爺>  
賞賜: 下賜する、恩賞を与える

12) 各家都有馬匹，又都有鷹犬，我們何不**合伙**一處**打**一個圍，**頑耍**一日。

有<馬匹>  
有<鷹犬>  
合伙: 仲間を組む、共同でする。  
打(一個)圍: 大勢で追い込んで狩りをする  
頑耍(一日): 遊ぶ

13) 要**打圍**，我們竟到晁大哥莊上。一來那雍山前後地方寬闊，野獸甚多，也還得晁大哥**作**個東道主人方好。

打圍  
到<晁大哥莊上>  
作(個)<東道主人>:(宴会などの)<主人役を>務める

14) 這都不打緊，我自**預備**。

預備

15) **打**一日，我也要去**走**一遭，**散散**我的悶氣。

打(一日):(狩りを)する  
去  
走  
散散<我的悶氣>: 気を晴らす。

16) 你一個女人家，怎好**搭**在男人隊裡。且大家**騎**馬，你**坐**了轎，如何**跟**得上。

搭(在男人隊裡): いっしょにする、關係する  
騎<馬>  
坐(了)<轎>  
跟(得上)

17) 這伙人，我那一個**寫**不出他的行樂圖來。十個人倒有十一個是我**相處**過的。我倒也連這伙人都**怕**來不成。若**說**騎馬，只怕連你們都還**騎**不過我哩。

每次人家出殯，我不去妝扮了馬上馳騁。不是『昭君出塞』，就是『孟日紅破賊』。如今當真打圍，脫不了也是這個光景，有甚異樣不成。

寫(不出) <他的行樂圖> (來)

<十一個> (是我) 相處(過)

“連” <這伙人> (都) 怕

來(不成)：怖い、苦手である

說<騎馬>

騎<馬>

騎不過<我>

出殯：出棺する

(不)去

妝扮：装いをする

馳騁：馳駆する、駆け回る

打圍

脫(不了) <這個光景>

有<甚異樣>

18) 你說的有理。得你去，越發覺得有興趣些。你明日把那一件石青色灑線披風尋出來，再取出一匹銀紅素綾做裡，叫陳裁縫來做了，那日馬上好穿。

說

有理：道理がある、理にかなっている

去

發覺得<有興趣些>：気がつく、発見する

“把” <那一件石青色灑線披風> 尋(出來)

取出<一匹銀紅素綾>

做裡：裏打ちをする

叫<陳裁縫> (來)

做

穿

19) 我的不在行的哥兒。穿著廠衣去打圍，妝老兒燈哩。還問他班裡要了我的金勒子，雉雞翎，蟒掛肩子來，我要戎妝了去。

穿(著) <廠衣>

去

打圍

妝<老兒燈>

問(他班裡) <要了我的金勒子，雉雞翎，蟒掛肩子來>

要(了) <我的金勒子，雉雞翎，蟒掛肩子> (來)

戎妝：軍装する

去

20) 妙，妙，妙。咱因甚往他班裡去借。淹薺療菜

的，髒死人罷了。咱自己做齊整的。脫不了也還有這幾日工夫哩。

去

借

髒<死人>

做<齊整的>

有<這幾日工夫>

21) 這雍山前面，我都是認識的人家，那裡來這個美女。看他沒人跟隨，定然不是大家宅眷，一身重孝，必定是寡婦新喪。真是奇貨可居。弄得到家，好與珍哥稱為二美。左英右皇，這也是風流一世。

來<這個美女>

看<他沒人跟隨>

<他> (沒人) 跟隨

弄(得到家)

稱為<二美>

《第二回》

1) 你回來路上歡歡喜喜的，你如何便惱巴巴起來。你一定又與禹明吾頑惱了。

回來

歡歡喜喜

惱巴巴：怒っているさま

(與禹明吾) 頑惱：喧嘩をし怒る。

頑：愚弄する、侮る、ばかにする

惱：怒る、腹を立てる。

2) 你實是為何。你的臉都焦黃土褐色的，多因路上冒了風寒。我叫人做些酸辣湯，你吃他兩碗，熱坑上發身汗出，情管就好了。

冒了<風寒>：<寒さを> 冒す

叫<人>

做(些) <酸辣湯>

吃<他> (兩碗)

發<身汗> 出

情管=管情：請け合う

3) 你叫丫頭暖壺熱酒來，我吃兩大鐘，看他怎的。

叫<丫頭>

<暖壺熱酒> 來

吃<兩大鐘(=盅)>

看<他怎的>

4) 打圍極好。如今年成作亂，有了楊家女將出世，還怕甚麼流賊也先。

打圍



成<作亂>

作亂：乱を起こす

有了<楊家女將>

出世

怕<甚麼流氓>也先

5) 這些婆娘，聽不得風就是雨。一個老婆家，雖是娼妓出身，既從了良，怎麼穿了戎衣，跟了一伙漢子打圍。這是故意假說要我生氣。我倒沒有這許多閒氣生來。若是當真同去打圍，除了我不養漢罷了，那怕那忘八戴『銷金帽』、『綠頭巾』不成。

聽(不得)

從(了)良

穿(了)<戎衣>

跟了<一伙漢子>

打圍

假說：うそを言う

要<我>

生氣

同去

打圍

養漢：情夫をこしらえる

戴<『銷金帽』、『綠頭巾』>

6) 外面是做甚的。如此放炮吹打。

做<甚>

放炮：爆竹をならす

吹打：(吹奏樂器と打樂器を)演奏する

7) 你前日人說不信，這卻是小珍哥同大爺打圍去了。

說<不信>

不信

打圍

去

8) 天下怎有這等奇事。如今去了不曾。

有<這等奇事>

去

9) 如今也將待起身。

起身

10) 待我自己出去看看，果是怎樣個行景。

出去

看看

11) 我還不曾梳洗，大家都不拜罷。

梳洗：髪をすき顔を洗う

(不)拜

12) 晁大爺 你如何不同去走走 卻閒在家中悶坐

(不)同去

走走

悶坐：ふさぎこんで座っている

13) 我家臉醜腳大，稱不起合一伙漢子打圍，躲在家中，安我過苦日子的分罷。

稱不起：…とは呼べない、…の資格がない

打圍

躲(在家中)

安(我過苦日子的)分：分に安んじる

過<苦日子>

14) 晁大爺倒也不是臉醜腳大，只有些體沉骨重，只怕馬馱不動你。

(不)動<你>

15) 大官人也沒正經。你要尊敬他，抬舉他，只在家中尊他抬他罷了，這是甚麼模樣。他倒罷了，脫不了往時每日妝扮了昭君，妝扮了孟日紅，騎著馬，夾在眾戲子內與人家送殯。只是大官人僧不僧、俗不俗，不成道理。莫說叫鄉里議論，就是叫任裡晁爺知道，也不喜歡。

尊敬<他>

抬舉<他>：重視する、取り立てる

尊<他>

抬<他>

妝扮(了)<昭君>

妝扮(了)<孟日紅>

騎(著)<馬>

夾

(與人家)送殯：会葬する

(不)成<道理>

議論

知道

(不)喜歡

16) 鄉里笑話，這是免不得的。俺公公知道，倒是極喜歡的，說他兒子會頑，會解悶，又會丟錢，不是傻瓜了。俺那舊宅子緊鄰著娘娘廟，俺婆婆合我算記，說要揀一個沒人上廟的日子，咱到廟裡磕個頭，也是咱合娘娘做一場鄰捨家。他聽見了，瓜兒多，子兒少，又道是怎麼合人擦肩膀，怎麼合人溜眼睛，又是怎麼著被人搵屁眼，怎麼被人剝鞋。廟倒沒去得成，倒把俺婆婆氣了個掙。不是我氣的極了，打了兩個嘴巴，他還不知怎麼頂撞俺娘哩。

笑話：あざ笑う、人を笑いものにする  
知道  
喜歡  
說<他兒子會頑，會解悶，又會丟錢，不是傻瓜了>  
頑  
解悶：氣を晴らす  
丟<錢>  
(不)是<傻瓜>  
緊鄰(著)<娘娘廟>  
(合我)算記=算計：思案する  
說  
揀<一個沒人上廟的日子>：選ぶ  
上廟：寺や廟に行く  
到<廟裡>  
磕(個)頭：ぬかずく  
(合娘娘)做<一場鄰捨家>  
聽見  
(合人)擦<肩膀>  
(合人)溜<眼睛>：ちらりと見る  
(被人)搵<屁眼>：ほじる  
(被人)剝<鞋>  
去(得成)  
“把”<俺婆婆>氣(了個掙)  
氣(的極了)  
打(了)<兩個嘴巴>  
(不)知<頂撞俺娘>  
頂撞<俺娘>：逆らう  
17) 大官人這等頂撞晁奶奶，晁爺就不嗔麼。  
頂撞<晁奶奶>  
(不)嗔：怒る、腹を立てる  
18) 晁爺還裂著嘴笑哩。還說該該我說休去。  
只當叫人說出這話來才罷了。這就俺公公管教兒的話了。  
裂(著)嘴=咧嘴：口をゆがめる  
笑  
說  
說<休去>  
去  
只當：…と思ひ込む  
叫<人>  
說(出)<這話>(來)

管教兒(的)<話>：請け合う、保証する  
19) 晁奶奶可也好性兒，不敢欺俺小人家依不的。這若是俺那兒這們敗壞我，我情知合他活不成。  
欺  
依(不的)  
敗壞<我>損害を与える、傷づける  
情知<合他活不成>：明らかに知っている  
活(不成)  
20) 俺娘沒的敢合他強一句麼。極的慌，擠著眼，往別處掉兩眼淚就是了。只是我看拉不上，倒罵兩句打兩下子，倒是有的。  
(合他)強(=搶?)<一句>  
極(=急)(的慌)  
擠(著)眼：目くばせする、目で知らせる  
往<別處>  
掉<兩眼淚>  
看<拉不上>  
拉不上  
罵<兩句>  
打<兩下子>  
有  
21) 你這們會管教 嗔道 管教的大官人做了個咬臍郎。  
管教  
嗔道  
管教  
做(了)<個咬臍郎>  
22) 哎哟，你們不醒的。咬臍郎打圍，井邊遇著他娘是李三娘。如今大官人同著小娘子打圍，不中咬臍郎麼。  
(不)醒  
打圍  
遇(著)<他娘>  
同(著)<小娘子>  
打圍  
(不)中<咬臍郎>  
23) 俺那裡曉得。怪道人說鄆嫂子知今道古。  
曉得  
說<鄆嫂子知今道古>  
24) 你還說叫我管教他。我還是常時的我，他還是常時的他哩麼。投到娶這私窠子以前，已是與了我兩三遭下馬威，我已是遞了降書降表了。我還敢管

他哩。

說

叫<我>

管教<他>

投(到娶這私窠子以前)

娶<這私窠子>

與(了)(我)(兩三遭)<下馬威>：威嚴を示す

遞(了)<降書降表>

管<他>

25) 晁大嬸，你是伶俐人，我**說**你**聽**，你倒休要**賭氣**。要不**拿**出綱紀來，**信**著他**胡行** **亂做**，就不成個人家。**拋撒**了家業或是**淘碌** **壞**了大官人，他**擻擻**屁股丟了，窮日子是你**過**，寡是你**守**。可是**說**螞蚱秀才的話，『**飛**不了你，**跳**不了你』。俺家裡那個常時**過**好日子時節，有衣裳盡著**教**他**紮括**，我一**嗔**也不**嗔**。他待和他**睡覺**，**憑**他一夜兩夜，就是十來宿，我也**知**不**道**甚麼是爭鋒吃醋。要是**丟風** **撒腳** **妄作** **妄為**，忘八淫婦，我可也都不**饒**。

說

聽

賭氣：やけになる

拿(出)<綱紀>(來)

信(著)<他胡行亂做>

胡行=胡作非為：乱行や悪事を働く

亂做

(不)成(個)<人家>に

拋撒了<家業>(或是)

淘碌(=碌)：禄をすり減らす

壞了<大官人>

擻擻<屁股>：ぴんと立てる

丟

<窮日子>(是你)過

<寡>(是你)守

說(螞蚱秀才的)<話>

飛(不了)<你>

跳(不了)<你>

過(好)日子

有<衣裳>

教<她>

紮括

(一)嗔(也不)嗔

睡覺

憑<他>

知不道<甚麼是爭鋒吃醋>

爭鋒：交戦する

吃醋：焼きもちを焼く、ねたむ

丟風

撒腳=撒腿：ぱっと駆け出す

妄作：むやみにことを行う

妄為：でたらめなことをする

(不)饒：許す

26) 他如今**紅**了**眼**，已是**反**了，他可不依你**管**哩！

紅(了)眼

反(了)

管

27) 真是一個同不的一個。他高大爺先鬼頭蛤蟆眼，你先虎背雄腰的個婆娘，他要做文王，你就**施**禮樂，他要**做**桀紂，你就**動**干戈。他高大爺先不敢在你手裡**展**爪，就是你那七大八，**象**個豆姑娘兒是的，你**降**他**象**鐘馗降小鬼的一般。你又自家處的正大，恩威並濟，他高大爺再又正經，怎麼不好？今大官人**象**個兇神一般，小娘子**登**過壇、**唱**過**戲**的人，可是**說**的好。**妝**出孟日紅來，連強盜也**征**伏了人。這晁大嬸小身薄力，**到**得他兩個那裡。

做<文王>

施<禮樂>

做<桀紂>

動<干戈>

展爪

象<個豆姑娘兒>(是的)

降<他>

象<鐘馗降小鬼的>(一般)

降<小鬼>

象<個兇神>(一般)

登(過)<壇>

唱(過)<戲>

說(的好)

妝(出)<孟日紅>(來)

征伏(了)<人>

到得<他兩個那裡>

28) 狗。天鵝倒大，海青倒小，**拿**得住住的。

拿(得住住)

29) 有甚緣故。如何把門**敲**得這等緊急。這一定有多嘴獻淺的人對那強人**說**我在大門前**看**他**起**身，與街坊婦人**說**話。這是**來** **尋**鬻了。我就是到門前與街坊家**說**幾句話，也還**強**似跟了許多孤老**打**圍 **丟**醜



有<甚緣故>  
“把”<門>敲(得這等緊急)  
有<多嘴獻淺的人>  
說<我在大門前看他起身>  
看<他起身>  
起身  
(與街坊婦人)說話  
來  
尋釁：言いがかりをつける、挑発する  
到<門前與街坊家>  
說<幾句話>  
強似<跟了許多孤老打圍丟醜>：…にまさる  
打圍  
丟醜：恥をさらす  
30) 看他來意如何，若又似前彩打，我便趁勢照他  
腦前戳他兩刀，然後自己抹了頭，對了他的命。  
看<他來意如何>  
戳<他>(兩刀)：突き刺す  
抹(了)頭  
對(了)(他的)命  
31) 大爺不知怎的，身上大不自在，不省人事，只  
是謔語，快請大奶奶前去看守。  
(不)知<怎的>  
不省人事  
前去  
看守  
32) 他已是與我不相干了。如何打圍沒我去處，病  
了卻來尋我。日裡即如兇神一般，合老婆騎在馬上，  
雄赳赳的，如何就病的這等快。這是忘八淫婦不知  
定下了甚麼計策，哄我前去，要算計害我。你說道  
他也不認我是他老婆，我也沒有了漢子。真病也罷，  
假病也罷，我半夜三更，不往前去。若是要處置我，  
脫不了還有明日。要殺要砍，任你們白日裡擺佈。  
若是真病，好了是不消說起。死了時節，他自有他  
任裡爹娘來與淫婦討命，我也是不管他的。  
(與我)(不)相干  
打圍  
病(了)  
來  
尋<我>  
如<兇神>(一般)  
騎(在馬上)  
就病(的這等快)

定下(了)<甚麼計策>  
哄<我>  
前去  
算計<害我>  
害<我>  
說道  
(不)認<我是他老婆>  
沒有(了)<漢子>  
(往前)去  
處置<我>：処罰する  
有<明日>  
殺  
砍  
擺佈：手配する、計画する  
說起  
死(了)  
(與淫婦)討命  
(不)管<他>  
33) 王皮好了，大家造化。死了，割了頭碗大的疤，  
有我這們個婆娘，沒帳。  
死  
割(了)<頭碗大的疤>  
有<我這們個婆娘>  
34) 你趁早那裡回來？這等忙劫劫的。  
回來  
35) 我家大爺自從昨晚送了眾位進門，似覺被人臉  
上打了一個巴掌的，身上寒噤。到了半夜，發熱起  
來。如今不省人事，只發謔語。小人適才往宣阜街  
請楊太醫診視，他還在家梳洗，小人先來回話。  
送(了)<眾位>  
進門  
似  
覺  
(被人)(臉上)打了<一個巴掌>  
寒噤：身震い(する)  
到(了)<半夜>  
發熱(起來)  
不省人事  
發<謔語>  
往<宣阜街>  
請<楊太醫>  
診視：診察する  
梳洗

來  
回話

36) 你家大爺昨日甚是精爽，怎麼就會這等病。

病(名?)

37) 晁大舍新娶了小珍哥，這個浪婆娘，我是領過他大教的。我向日還服了蛤蚧丸，搽了龜頭散，還戰他不過。幸得出了一旅奇兵，剛剛打了個平帳。晁大舍雖然少壯，怎禁他晝夜挑戰，迭出不休。想被他弄得虛損極了。昨又打了一日獵，未免勞苦了，夜間一定又要雲雨，豈得不一敗塗地。幸得也還在少年之際，得四帖十全大補湯，包他走起。

娶(了) <小珍哥>

領(過他大)教：教えを受ける

服(了) <蛤蚧丸>

搽(了) <龜頭散>：塗る

戰(他) (不過)

出(了) <一旅奇兵>

打(了) <個平帳>

挑戰

迭出

想

(被他)弄(得虛損極了)

打(了一日)獵

勞苦(形?)：苦勞が多い

雲雨：男女の情交(名?)

(不)一敗塗地

在 <少年之際>

得 <四帖十全大補湯>

包 <他>：請け合う

走起

38) 我聞得他與小珍哥另在一院居住，不與他大娘子同居，進入內房看脈，必定珍哥出來相見。

聞(得)

(另在一院)居住

(與他大娘子)同居

進入 <內房>

看脈

出來

相見

39) 禹明吾這伙人在此，若同進他房去，只怕珍哥不出來了。

在 <此>

進 <他房> 去

(不)出來(了)

40) 這伙人也是他的厚朋友，昨日也曾在一處打圍，想也是不相迴避的。只是人多了，情便不專。

(在一處)打圍

(不相)迴避

41) 請楊相公進去。

請 <楊相公>

進去

42) 我也要同進去看看。

進去

看看

43) 房內無人，請眾位一同進去無妨。

無 <人>

請 <眾位>

進去

44) 咱昨日在圍場上，你一跳八丈的，如何就這們不好的快。想是脫衣裳凍著了。

(一)跳 <八丈>

脫 <衣裳>

凍(著)

45) 你尋本書來，待我看一看脈。

尋 <本書> (來)

看(一)看 <脈>

46) 這冊葉硬，攔的手慌。你另尋本軟殼的書來。若是大本《繹紳》更好。

攔(的手慌)

尋 <本軟殼的書> (來)

47) 這等齊整，那珍哥落得受用，不知也還想我老楊不想。

落(得)

受用

想 <我老楊> (不)想

48) 我說不是外感，純是內傷。

說 <不是外感，純是內傷>

49) 這有甚麼正經。遇著庸醫錯看了脈，拿著當感，一帖發表的藥下去，這汗還止的不住哩，不備的十生九死了。如今咱下對症的藥，破著四五帖十全大補湯，再加上人參天麻兩樣擋戩的藥，包他到年下還起來合咱頑耍。

有 <甚麼正經>

- 遇(著) <庸醫>  
 (錯)看(了)脈  
 拿(著)  
 當<外感>  
 發表：発汗させて“表”(皮膚と皮下)の邪気を  
 発散解除すること  
 下去  
 止(的不住)  
 下(對症的)藥：投薬する  
 對症：症状に合う  
 破(著) <四五帖十全大補湯>  
 加上<人參天麻兩樣擋戲的藥>  
 擋戲：役に立つ  
 包<他到年下還起來合咱頑耍>  
 起來  
 (合咱)頑耍
- 50) 您大爺這病，成了八九分病了。你見他這們個  
 胖壯身子哩，裡頭是空的。通象一堵無根的高牆，  
 使根槓子頂著哩。我聽說如今通不往後去，只合小  
 珍哥在前面居住，這就是他兩個的住宅麼。  
 成(了) <八九分病>  
 見<他這們個胖壯身子>  
 空  
 象<一堵無根的高牆>  
 使<根槓子>  
 頂(著)  
 聽說  
 通(不往後去)  
 (在前面)居住
- 51) 藥袋上寫的明日，如今就吃。吃了且看投不投  
 再好加減。  
 寫(的明日)  
 吃  
 吃(了)  
 看<投不投>  
 投(不)投  
 加減：加えたり減らしたりする
- 52) 他還說什麼來？他沒說你爺的病是怎麼樣著？  
 說<什麼>來  
 說<你爺的病是怎麼樣著>
- 53) 他說俺大爺看著壯實，裡頭是空空的，通象那  
 牆搜了根的一般。『你合你姨說，差不多罷，休要淘  
 碌壞了他。』  
 說<俺大爺看著壯實>  
 象<那牆搜了根的>(一般)  
 搜(了)根：調べあげる？  
 (合你姨)說  
 淘碌(壞了)<他>
- 54) 放他家那撇尾巴騾子臭屁。沒的那砍頭的臭聲。  
 我淘碌他甚麼來。  
 放(他家那撇尾巴騾子)臭屁  
 砍頭(的)  
 淘碌<他甚麼>(來)
- 55) 天爺可憐見，叫你好罷。你要有些差池，我  
 只好跑到你頭裡罷了。跑的遲些，你那『秋胡戲』  
 待善擺佈我哩。  
 見  
 叫<你>  
 跑(到你頭裡)  
 跑(的遲些)  
 擺佈
- 56) 你可也沒志氣。他恨不的叫我死。見了他的眼  
 你沒要緊可去請他。你要不信，你去看看，他如  
 今正敲著那歪拉骨鞋幫子念佛哩。  
 沒<志氣>  
 叫<我>(死)  
 死  
 見(了)<他的眼>  
 去  
 請<他>  
 (不)信  
 去  
 看看<他如今正敲著那歪拉骨鞋幫子念佛哩>  
 敲(著) <那歪拉骨鞋幫子>  
 念佛
- 57) 你且慢說嘴，問問你的心來。夫妻到底是夫妻  
 我到底是二門上門神。  
 說嘴  
 問問<你的心>(來)
- 58) 你說的是我大雞巴。我只認的小珍哥兒，不認  
 的小計大姐。你且起去，還叫人去請了楊古月來看  
 看，好再吃藥。  
 說(的)  
 認的<小珍哥兒>  
 (不)認的<小計大姐>  
 起去

叫<人>

去

請(了)<楊古月>

來

看看

吃<藥>

59) 你還去請了楊古月再來看看你爺，好加減下藥。你說吃了藥，黑夜安穩睡了一覺，熱也退了許多；如今也省的人事，不胡說了。你騎個頭口去，快些回來。

去

請(了)<楊古月>

來

看看<你爺>

加減<下藥>

下<藥>

說

吃(了)<藥>

睡(了一)覺

<熱>(也)退(了許多)

省(的)<人事>

(不)胡說

騎<個頭口>

去

回來

60) 治病只怕看脈不准，要是看的脈真，何消第二帖藥。只是你大爺虛的極了，多服幾劑，保養保養。要是時來暫去的病，這也就不消再看了。昨日要是第二個人看見你家這們大門戶，饒使你家一大些銀子，還耽閣了『忠則盡』哩。你那珍姨，我治好他這們一個漢了，該怎樣謝我才是。

治病

看脈(不准)

看(的)脈(真)

虛(的極了)：虛弱である

(多)服<幾劑>

保養保養

看

看

饒

使<你家一大些銀子>

耽閣(了)<『忠則盡』>

治(好)<他這們一個漢>

謝<我>

61) 我昨日對俺珍姨說來，說：楊爺叫和你說，差不多罷，少要淘碌壞了俺爺哩。

(對俺珍姨)說來

說

叫

(和你)說

淘碌

壞(了)<俺爺>

62) 你珍姨怎樣回你。

回<你>

63) 俺珍姨沒說甚麼。只說『沒的放他那擻尾巴騾子屁。砍頭的那臭聲。』

(沒)說<甚麼>

說<『沒的放他那擻尾巴騾子屁 砍頭的那臭聲』>

>

放(他那擻尾巴騾子)屁

64) 夜來有勞，我通不大省人事了。吃了藥，如今病去三四分了，我的心裡也漸明白了。

有勞

省<人事>

吃(了)<藥>

<病>去(三四分)了

明白

65) 有咱這們相厚的手段，還怕甚麼。

有<咱這們相厚的手段>

怕<甚麼>

66) 你往東間裡另取本書來。

往<東間裡>

取<本書>(來)

67) 這病比昨日減動六七分了。今日再一帖下去，情管都好了。

<這病>(比昨日)減動(六七分了)

(一帖)下去

情管<都好了>

68) 小楞登子。我叫你多嘴。

叫<你>

多嘴

69) 姓計的，我害不好，多謝你去看我。我今日怎的也起來了。我如今特來謝你哩。

害(不好)

(多)謝<你>

去

看<我>

起來

來

謝<你>

70) 你沒得扯淡。你認得我是誰。我去看你。你往  
看你的去處謝。你謝我則甚。

扯淡

認得<我是誰>

去

看<你>

往<看你的去處>

看<你>

謝

謝<我>

### 3.2 動詞の分類

3.1 で抽出した動詞の内、《第一回》分のみを分類すると以下ようになる。

#### <自動詞>(36)

①目的語をとれないもの

A. “一价动词” (4)

玩耍(頑耍)、妝扮、馳騁、戎妝

B. “离合词” (14)

廷試、坐監、考選、中舉、就官、讀書、磕頭、  
發帖、選官、湊手、合伙、打圈、出殯、做裡

②目的語に「が」がつくもの(動作主を表す) (3)

没、缺、來

③目的語に「に」がつくもの(9)

去、來、到、走、在、跟、騎、坐、跟隨

④目的語に「と」がつくもの(4)

搭、相處、說、稱為

⑤その他(2)

如、脫

#### <他動詞>(47)

①主体の動作・作用が直接的に及ぶもの

A. 目的語が外的変化を伴うもの(5)

叫、苦死、盤踞、散、髒

B. 目的語が内的変化を伴うもの(5)

揀換、取用、賜下、與、取出

C. 目的語自体は変化を伴わないもの(24)

科、照管、考、參見、尋、選、待、得、用、  
支取、使下、使、領、撰、賞賜、與、賞賜、  
預備、有、叫、穿、問、要、借

②精神的働きかけの対象となるもの(3)

望、待、看

③動作・作用の結果、作り出されるもの(5)

撰(=賺)、寫、發覺、做、弄

④使用・操作する対象としての道具であるもの

なし

⑤主体の演じる役割であるもの(5)

中、考中、當起、作、妝

⑥動作・行為の向かう場所であるもの

なし

⑦動作・行為の向かう方向であるもの

なし

<自動詞>の特徴は、総数36のうち①Bの離合詞が14と、多く登場している点である。また、現代語には存在しない語彙も見られ、この時期から離合詞の生成が活発に行われていたと考えられる。

<他動詞>の特徴は、総数47のうち①Cの動詞が半数以上の24と多いことであるが、この傾向は現代語と共通している。

### 3.3 動詞分類の問題点

動詞分類の問題点として以下の点が挙げられる。

1) 品詞の確定について

中国語では、動詞と形容詞・名詞との境界が曖昧で、「動詞」の確定が難しいものがある。例えば、《第二回》の例文37)の“勞苦”(苦勞が多い、苦勞をする)は形容詞とも動詞ともとられ、“雲雨”(男女の情交)は名詞であるが、ここでは動詞として使われている。

また、《第二回》の例文11)の“梳洗”(髪をすき顔を洗う)などのように、一つの動詞とするか、二つの動詞の連語とするかについての判断が難しい場合も多い。

本論では、これらの動詞については「動詞」と確定できないために分類の対象とはしていないが、今後の検証において品詞の確定を明確に行っていく予定である。

2) 語彙の安定性について

“假說”(うそを言う)など、現代語にはない語が存在し、会話文の中にも文語的な表現が多く現れ、語彙の存在が不安定である。また、情管(=管情:請け負う)のように現代語の語順とは逆の



語彙も存在し、この時期は語彙形成の過渡期であることがわかる。

#### 4. おわりに

ここでは、現代中国語の動詞分類に基づき、近世中国語の動詞の分類を行う試みについて考察をしてきた。今後は、さらに《醒世姻縁伝》の各回における動詞の使用状況を調べ、近世中国語における動詞分類の特徴を考察すると同時に、他動性の検証として目的語の前置された構造である主題文、“把”構文などの検証を行い、現代語の動詞の特徴と比較をし、歴史的な変遷や方言との比較などについても研究を進めていきたいと考えている。

#### 注

- 1) 作者については諸説あり、蒲松齡という説もあるが、正確な作者については現在不詳となっている。

#### <参考文献>

- 植田均 2016. 『《醒世姻縁伝》方言語彙辞典』 白帝社。
- 木村裕章 2004. 「中国語における自動詞と他動詞の分類について」, 『東亜大学紀要』第3号, 東亜大学。
- 2010. 「日本語と中国語における自・他動詞の対応と分類」, 『東亜大学紀要』第11号, 東亜大学。
- 『動詞大辞典』 林杏光审定, 魯川主编, 1994年, 中国物资出版社。
- 『现代汉语动词大辞典』 林杏光・王玲玲・孙德金主编, 1994年, 北京语言学院出版社。

# The Classification of Verbs in “醒世姻緣伝” and some problems

Hiroaki KIMURA

Department of International Studies, Faculty of Human Science, University of East Asia

## Abstract

I performed work to divide a verb of modern Chinese into an intransitive verb and a transitive verb in Kimura2004/2010, and classified transitive verbs in seven based on the transitivity. In this study notebook, I examine the problems of the verb classification as similar preparations inspecting about a verb of Chinese in the early modern times.

Specifically, I pull out a verb from conversations in “醒世姻緣伝” which is the novel among the end of the Ming dynasty to the beginning of the Qing dynasty, and determine which is an intransitive verb or a transitive verb. The judgment for transitive verbs is whether it is accompanied by an object after verbs, but there are various semantic roles in Chinese, so we can make decision that it is a transitive verb or not by the semantic role.

